

「奉納そば初打ち式」実施報告

(ふくいそば打ち愛好会)



奉納そば初打ち式(佐佳枝廼社・福井市)

ふくいそば打ち愛好会(福井県福井市・田中高二会長)は、1月13日(月・祝)に福井市内のある神社、佐佳枝廼社(さかえのやしろ)で「奉納そば初打ち式」を行いました。

ふくいそば打ち愛好会は平成10年に発足しましたが、その翌年から平和安寧と五穀豊穰、健康長寿と会員のそば打ち技能と会活動がさらに精進することを祈願して「奉納そば初打ち式」を始めました。

以来、休むことなく举行され今年で22回目を迎え、福井県内では新年の恒例行事としてテレビや新聞で盛んに報道されています。

代表的な伝統食文化である「そば打ち」を、正月の神前に奉納する「初打ち式」は、そば打ちの魅力を発信することに有効であるとともに、「そば打ち」の社会的な位置付けを向上させることに、大きな役割を果たすものと思われまます。

ふくいそば打ち愛好会の田中会長から原稿と写真の提供を受けましたので、全麵協会員の優れた実践事例として、その概要をご報告させていただきます。(報告:広報渉外部 谷端)

1. 奉納そば初打ち式の歴史

平成10年にふくいそば打ち愛好会が発足し、翌年の平成11年1月から今回の令和2年 1月まで、一回も休むことなく連続して22回実施しています。

2. 奉納そば初打ち式の目的

お祓いを授かった会員が打ったそばを本殿に献上し、平和安寧と五穀豊穰、健康長寿と会員のそば打ち技能と会活動がさらなる精進を祈願することを目的としています。

また、神前でお祓いを受けた清らかな心で打ったそばを一般の方に振舞うことで、そばの普及とお役に立てればという気持ちと、故・中山重成氏が会員に諭した「礼知信心技体の精神」を忘れずに精進して行く気持ちを新たにすることを目的としています。

3. 奉納そば初打ち式の内容

奉納そば打ちは、神楽殿内で執り行われます。後見人が見つめる中を、選ばれた3名がそれぞれ「こね」「延し」「切り」を担当してそばを打ちます。打ち上げたそばは「三方(さんぼう)」に盛られて、後見人が神官にお渡しして神前に奉納されます。その後、会員が「そろい打ち」を披露して、参拝者された方々に400食分のそばを振舞いました。

4. 奉納そば初打ち式に対する反応

①会員として：新年にあたり、気持ちを新たにスタートして行く決意が生まれている。

②報道関係：ラジオ・TV・新聞等の取材が、年を追って徐々に多くなっています。

③神社(佐佳枝廼社)：例年、大変に協力的で大変助かっています。

④参拝客(見学者)：早い方は3時間も前から、そばの配布を待っている方が来られます。

今年はおおよそ250名以上のお客が見学に来られました。

5. 今後の展望・抱負

伝統あるこの行事は来年も再来年も今後、絶やすことなく続けていきたいと思っています。

また、「奉納そば初打ち式」のことを知った県外のそば愛好会会長が、わざわざ視察に来られて励ましの言葉を頂きました。心から感謝するとともに、そば打ち仲間の絆を感じました。

「奉納そば初打ち式」写真・新聞報道



会員による参拝・祈祷



奉納そば初打ち式・全景

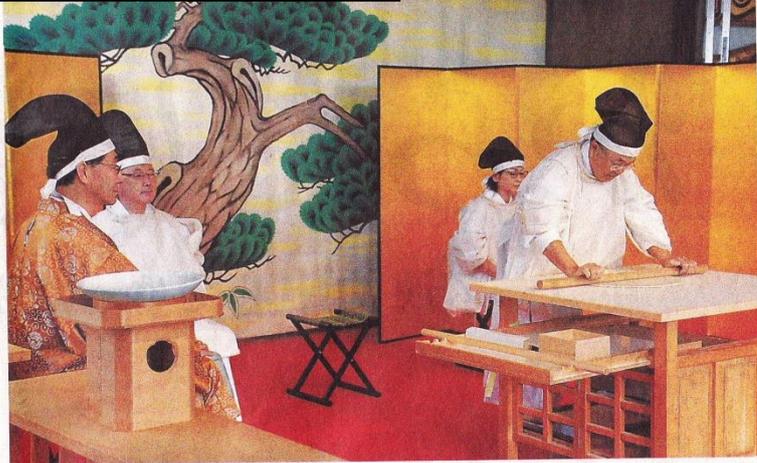


奉納そば初打ち式を終えて



そろい打ち(振舞い用)

福井新聞に掲載(1月14日)



献上そばの初打ち式が13日、福井市大手3丁目の佐佳枝酒社であった。雅楽が流れる厳かな雰囲気の中、県内外のそば愛好者から選ばれた、こね、延し、切りの各名人が技を披露。本殿に奉納し、五穀豊穡や健康長寿を祈った。献上後は会員が一斉にそばを打つ「揃い打ち」があり、先着2

そば 初打ち

00人に400食を振る舞った。こね方を務めた福井市の仲谷美行さん(77)は2回目の献上そば打ち。「何回やっても緊張しますが、自分では完璧にできたと思う」。趣味でそば打ちイベントなどに参加しており、「今年1年健康に過ごし、おいしいそばを作ってみなさんに喜んでほしい」と話していた。(平野尚紀)

おいしく健康願う